東京都御岳ビジターセンター発行（年２回）

御岳ビジターセンターが照らす…

木もれび

vol. 19
2023 春号刊行

特集 ＼御岳山で／ 歴史を感じる散歩がしたい

▼御岳百景
「野鳥たちが教えてくれる御岳山の資源」
▼御岳山でちょい
「山頂からの展望」

御岳百景

第19号 野鳥たちが教えてくれる御岳山の資源 認定

御岳山では、春に渡ってくる夏鳥が約20種、秋に渡ってくる冬鳥が約20種、一年中いる留鳥は約40種、一年を通じて約80種もの野鳥が生息しています。夏鳥と留鳥の約60種はみんな御岳山で子育てをするので、これから春になると、メスへの求愛や縄張りのために囀（さえず）るオスたちの声で、山内はとても賑やかになってきます。

４月のある日の御岳山。ケーブルカーの御岳山駅の辺りでは早朝からホオジロが木のてっぺんで囀っています。周辺の森や畑を利用しているようです。「コンコンコンコン」富士峰園地ではキツツキが木を突く音がいろいろな所から聞こえ、エナガやシジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラの夫婦がちょこまかと枝から枝へ移動し、雛に与える餌を探しては飛んでいきます。杉並木の表参道では、夏鳥のクロツグミが通る声でよく鳴いていますが、林の中でなかなか姿を見せてくれません。

ロックガーデンに行くと、ミソサザイが大きな声で囀っています。10g程度の小さな体でよくあの声が出るなと感心します。木のてっぺんで囀る習性があるオオルリは、天狗岩の近くの木の上から美声でメスにアピール。ロックガーデンの沢で育つ昆虫たちを捕まえて子育てします。

御岳山の春は、野鳥たちの声が途切れることなく賑やかです。守られた森や渓流、スギやヒノキの植林地、人が暮らす集落や畑、それぞれの自然環境を利用し、子育てをします。野鳥たちが、御岳山に豊かな資源があることを教えてくれているような気がします。これからも、命を育める自然環境が遺り続けますように。

御岳山でちょい

"ちょい"とは御岳山の方言で"休憩する"という意味

御岳山の山頂は、武蔵御嶽神社があるところです。もし神社内に昇殿する機会がありましたら見てほしい景色があります。神様が見ているであろう拝殿からの景色と一緒にすっーと深呼吸してみてください。私がホッする瞬間の一つです。
標高929mの雲の上から眺める関東一円の景色は、山頂にいることを実感します。
今回は、御岳山山頂で、ちょっと休憩がてら展望を紹介します。
正面の左方面には筑波山、正面（東側）には日の出山、スカイツリーや東京タワー、右方面は横浜のランドマークタワー、右側奥に房総半島や江ノ島まで見えます。この展望は、日中だけでなく夜の神社や夜景もとても風情があります。
人々が作り出した光がちかちか点滅して、私には光りの川や海が広がっている様に見えます。
双眼鏡があればスカイツリーの光の輪が回る様子が見えることもあります。宿坊に宿泊すると楽しみが広がります。
耳を澄ませば、車の音、電車の音、野生動物の鳴き声も聞こえるかもしれませんね。

東京都御岳ビジターセンター「木もれび」 2023年春号 vol.19
東京都御岳ビジターセンター作成 2023年3月発行

所在地：〒198-0175 東京都青梅市御岳山38-5
TEL 0428-78-9363 FAX 0428-78-9445
開館（9:00～16:30） 休館（月曜日 ※祝日の場合は翌日・年末年始）

バックナンバーは
こちらから♪

御岳山で歴史を感じる散歩がしたい！

意外と知らない御岳山の歴史を感じられるスポットをご紹介します！何気なく通り過ぎている場所や物も、よく見ると新しい発見があるかもしれません。

1 随身門（ずいじんもん）のヒミツ

現在の随身門

手水舎から石段を少し上った所にある大きな門が「随身門」。両側の小部屋には「随身」である右大臣・左大臣の像があります。「随身」とは元々身分の高い人を警護する役目の人のことで、この随身は神様を守っています。

ところで、この随身門は良く見ると、中の像に対して天井が高いと思う方もいるかもしれません。実はかつて御岳山にはお寺もあり、この随身門はそのお寺の仁王門でした。門は元禄13年に造営され、江戸時代に書かれた書物などには、高さ二丈七尺（約8m）の「楼門（2階建ての門）」とあり、中には金剛力士像があったと記されています。　しかし、明治時代に神仏習合のために神社のみとなったため、門を改築し、左大臣・右大臣像を安置して、現在の随身門になりました。御岳山の辿ってきた歴史が垣間見える場所の一つです。

2 御岳山にはお城があった!?

御岳山は昔お城があったかもしれないと言われています。「曲輪（くるわ）（城を構成する区画。城跡では段々のような地形になっている事が多い）」や「堀切（ほりきり）（防衛のために、尾根を断ち切るように作られた掘。）」という中世の山城跡のような地形が見られますが、本当にお城だったのか、どういう存在だったのかはハッキリとはしていません。もしお城があったとすると東京で最も高所に築かれた天空の城であり、だれが?何のために?と考えるとロマンを感じます。

ビジターセンターの近くに残る堀切の跡

山城とは・・・？

低山に多く、地形を最大限に生かして作られる。しかし平地よりも建築が困難になるため、簡素な作りの城が多い（平らにした部分に櫓（やぐら）や小屋が立つ程度）。

大きな建物があるような城ではなく、こんなイメージ

3 江戸時代の道標

ビジターセンターから神社へ向かう途中にある、古い道標を見た事はありますか?江戸時代末期に作られた石製の道標が3つ建っています。

よーく見ると、「江戸」や「青梅」などの文字がうっすらと見えてくるはず。江戸時代の御岳参りの人々も、まさにこれを見て神社に向かっていたと思うと不思議な気分になります。ぜひ3か所すべて探してみてください！

東馬場近くの道標

彫られた地名

4 神社の昔の名前

石段脇の石碑

手水舎の後方や、宝物殿前の石段脇にある小さな石碑を知っていますか?「大麻止乃豆乃天神社（おおまとのつのあまつかみのやしろ）」と彫ってあり、これは武蔵御嶽神社のかつての名前です。明治時代の神仏分離により、蔵王権現を祀っていることから『延喜式』に記載のある「大麻止乃豆乃天神社」と同一と推定され、一時この名前になりました。その後、御嶽神社になり、さらに現在の武蔵御嶽神社へと名前が変わりました。目立たない石碑ですが、ここにも神社の歴史が感じられます。

神社で良く聞く『延喜式神名帳（えんぎしきしんみょうちょう）』とは・・・？…

927年に完成した律令の補完のために作られた法令集（「式（しき）」）の一部で、当時の朝廷から奉納品を受けられる神社の名前が記載されている。その頃にすでに神社として存在していることから、記載の神社は格式高いとされ、「式内社」や「式社」などと呼ばれている。

5 宝物殿前の騎馬武者はだれ?

像の主は「畠山重忠（はたけやましげただ）」という平安時代末期から鎌倉時代初期に御家人として活躍し、清廉な人柄で「武士の鑑」と称された人物で、2022年の大河ドラマにも登場し注目されました。この像は彫刻家の北村西望（きたむらせいぼう）氏作で、1981年（昭和56年）の式年大祭の際に製作されました。大きな像のため、参道から運ぶことは難しく、ヘリコプターで吊り上げて設置されました。また、軽量化のためアルミニウム製となっています。着用している鎧は重忠が奉納したと伝えられる「赤糸威鎧（あかいとおどしよろい）（国宝）」をモチーフにしているそうです。すぐ後ろの宝物殿ではこの鎧以外にも、重忠が奉納したと言われる鞍や太刀など、貴重な物が見られます。

探してみてね 神社や集落内の華麗な彫刻

集落内や神社の建物をじっくり見ると、様々な彫刻があることに気付きます。色々な生きものや意外な場所の彫刻、予想以上にカラフルだったり、多種多様です。それぞれに繁栄や家内安全、防火など縁起の良い意味が込められています。何種類見つけられましたか?

灯篭をよーく見ると、十二支の動物たちが並んでいる

神社拝殿の天井にも龍が描かれている

兎と波の組合わせは工芸品などにも使われる縁起の良い図柄

鹿が彫られた灯篭も多い

獅子と獏（ばく）（獏は想像上の動物で、悪夢を食べてくれるという）

ビジターセンター近くの宿坊の懸魚（げぎょ）（屋根のパーツ）にいるツル

虎は旅の安全やご祭神を守護するなどの意味があると言われる

魔除けの意味があると言われるハート型の猪（い）の目懸魚（めげぎょ）